全日本私塾教育ネットワーク

私塾ネット広報

http://www.shijuku.net

第38号(平成24年５月号)

爽快

—爽やかで心地よいこと—

Photo by Joh Tadamichi

全日本私塾教育ネットワーク

センター事務局　仲野十和田
〒173-0005　東京都板橋区仲宿55-8-205　ナカジュク内
TEL:03-3963-5572　FAX:03-3963-2529
Mail:center-office@shijyuku.net

理 事 長　湯口　兼司
TEL03-5743-7458
広報部長　大住　明敬
TEL048-957-8608

全国塾長・職員研修大会
私塾ネット設立１０周年記念大会

日時：平成２４年４月２２日（日）
会場：「浅草ビューホテル」

プ ロ グ ラ ム
第一部　研修大会　　開場　午後1時30分
①『設立10周年記念式典』　午後2時00分～3時15分
・映像で見る「私塾ネットこの10年」
エリア関東代表　仲野十和田
・ご挨拶：3つの任意団体から「私塾ネットへ」
センター理事長　鈴木正之
・ご来賓祝辞
東京私立中学高等学校協会
副会長　實吉幹夫氏
全国学習塾協会
会長　伊藤政倫氏
・功労者記念品授与
実行委員長：谷村志厚
・エリア代表から近況とご挨拶
・謝辞　名誉会長　山口恭弘

②『設立10周年記念講演会』午後3時30分～5時30分
◆「塾団体50年史・学習塾100年史」出版報告
センター渉外部長：佐藤勇治
◆記念講演　上甲　晃　氏
『激動し続ける日本、これからの人づくり』
～果たして塾や学校は今までのあり方でいいのか？～

第二部『設立10周年記念パーティ』午後6時～8時
・主催者ご挨拶
第3代理事長　鈴木正之/新理事長　湯口兼司
・乾杯　京北学園前校長　川合　正氏
・ご来賓祝辞
衆議院議員　下村博文氏
参議院議員　大島九州男氏
全国学習塾協同組合　理事長　森　貞孝氏
関西私塾教育連盟　理事長　藪木章雄氏
声の教育社　専務取締役　小泉邦人氏
・演芸「江戸紙切り芸」林家正楽
・エリア代表から近況とご挨拶
・映像で見る「私塾ネットこの10年」
・謝辞　実行委員長　谷村志厚

新緑も瑞々しい４月２２日（日）、都内浅草にある、「浅草ビューホテル」にて「全日本私塾教育ネットワーク（以下、私塾ネット）　設立１０周年記念大会」が開催されました。全国各地より会員が集合、研修大会への参加者は200名を超え、第二部の懇親会も160人もの着席パーティーとなるなど、活気あふれる会場となりました。

第一部は、「設立１０周年記念式典」と「記念講演」の２本立てです。
「記念式典」では、関東代表仲野十和田先生力作の「映像で見る私塾ネットの１０年」、大会実行委員長でもある、私塾ネット会長の谷村志厚先生の進行で、私塾ネットの設立に功績を残された、山口恭弘先生、平林治先生、梶原賢司先生、佐藤勇二先生の各先生方に記念品が授与されました。また、「記念講演」に先立ち、佐藤勇二先生から「塾団体50年史・学習塾100年史出版報告」もなされました。

私塾ネット設立時に重責を負われていた方々に功労者記念品を贈呈。左から佐藤、梶原、平林、山口の4先生とプレゼンター加藤、宝田、竹内、湯口先生。右端は進行の谷村実行委員長。

感動講演９０分「上甲節」に酔う

そして「記念講演」のスタートです。「激動し続ける日本、これからの人づくり～果たして塾や学校は今までのあり方でいいのか？～」というテーマのもと、講演者の上甲晃先生がにこやかに登場されました。以下にその内容をご紹介いたします。

『一次情報で勝負せよ！』

「一次情報」とは、自分目で確かめ、経験し、考えた自分しかもっていない情報のことです。一次情報がないと他人と同じような情報を集めることになり、結果他人と同じような考え方しかできません。

『知っている人間ではなくできる人間を育てる』

例えば教育学を知っている人間が必ずしも教育ができるとは限らない、と上甲先生はおっしゃいます。知識も技術も資格も人生の道具であり、そこに

記念講演は上甲晃氏。90分ノンストップのよどみのない、関西人らしいユーモアに富んだ語り口が聴衆を引きつけて止まない。

人間力を高める努力がなければ、他の努力は生きてこないのです。

『他人のためにおしげもなく力を注ぐ人間は魅力的である』

自分のことしか考えられないような人間は、人間的魅力があるとは言えません。人間的魅力とは他人のために惜しげもなく力を注げることではないでしょうか。努力の方向をぜひ人のために向けてみてください。

『あらゆる難は人生の喜びになる』

人は自分が順調のときには誰しも反省はしないものです。逆風こそが反省をするチャンスなのです。反省は改革につながります。難はだれのもとにも必ず訪れます。その難を「はい喜んで」と受け入れた瞬間から人生の喜びにつながるのです。

『底力は当たり前のことを徹底する力』

逆境は底力を養うチャンスでもあります。当たり前のことを誰よりも徹底してやる時に感動は生まれます。教育に携わる人にはぜひ矜持としていただきたいことがあります。それは、人に求める限りは自分が徹底してやるという厳しさです。

最後にマザーテレサの言葉で締めくくりたいと思います。上甲先生はマザーテレサに「なぜそこまで人に尽くすことができるのか」という質問をどうしても直接してみたく、インドまで会いにいったそうです。マザーテレサは以下のように答えました。

「イエス・キリストは、一番受け入れがたい姿で現れ、自分を試してるのだ。」

(文責　ＬＡＰＩＳ鎌ヶ谷　加藤はるか)

上甲晃先生＜プロフィール＞昭和16年大阪生まれ。昭和40年に京都大学教育学部を卒業し、松下電器産業株式会社に入社、広報、電子レンジ販売などを担当。昭和56年、財団法人松下政経塾に転勤し、平成7年10がつまで同塾塾頭、常務理事、副塾長を務める。平成8年4月に松下電器産業株式会社を退職し、志ネットワーク社を設立。21世紀を担う若い人材の育成に尽力。現在は山梨県で展開する「夢甲斐塾」の塾長。また、活動の一環として、「青年塾」を創設し、青年の啓蒙に当たっている。

私塾ネットセンター代表者会議（総会）

日時：平成24年4月22日（日）12:30～13:20

場所：浅草ビューホテル　3F蔵前の間

出席（敬称略）

山口、谷村、鈴木、湯口、梶原、河浜、渡辺（浩）、監物、大住、佐藤（勇）、田中（宏）、近藤、宝田、中村、渡部、松本、杉山、佐藤（将）、寺嶋、林、仲野

委任状出席⇒入江、関、楠山、長江

定足数25名　委任状出席を含め、全員出席の快挙

進行：仲野十和田（事務局長）。規定により、議長を鈴木正之理事長に指名。

第1号議案　平成23年度事業報告（仲野事務局長）
第2号議案　平成23年度決算報告（監物会計部長）
第3号議案　理事長及び事務局長の選出
第4号議案　平成24年度予算案（監物会計部長）
第5号議案　平成24年度事業計画案（鈴木理事長）

全て、満場一致で承認されました。

第2号議案では、第4代理事長へ湯口兼司先生が選ばれ、事務局長に仲野が指名される。

その後、4月8日（日）にエリア総会が行われ東北代表に選出された渡部信雄先生、エリア九州が発足しその代表となる、林芳子先生のご紹介、その他のエリア代表の方々から、近況報告を語っていただき、最後に当日の記念大会の成功を祈った。

←代表者会議の総意で新理事長に選出された湯口先生、新任の挨拶。

↓和やかな雰囲気の中、代表者会議は開催された。

新理事長誕生　鈴木第３代理事長から湯口新理事長へバトンタッチ

鈴木正之理事長の任期満了（２年２期計４年）にともない、湯口兼司氏（湯口塾・香川県）が全国代表者会議において満場一致で選任された。あわせて事務局長として仲野十和田氏の続投が推挙、承認された。

次なる世代への架け橋

理事長　湯口兼司

平成２４年４月２２日、『私塾ネット設立１０周年』記念大会はテーマ〈新たなる頁へ〉にふさわしい素晴らしい大会となりました。谷村志厚大会実行委員長の下、私塾ネット関東の先生方の連携によって、２００人を超える各地、各方面のお客様を接待、また総会、研修大会、懇親会と全てにおいて本当に見事な受け入れができました。身内の私が褒めるのもどうだろうか？とも思うのですが、ご参加くださった皆さんの笑顔が印象的で、それを物語っていたように思います。そしてお集まり頂いた方々がこの会の１０年間を祝福してくださっているのがよく分かりました。久しぶりにお会いする懐かしい方々との話の中で、個人的にはこみ上げてくるものもあり、みなさんと貴重な時間を共有することができました。全塾連、PTF、日私会の三団体が１１年前に大同団結し、真の意味で一つになったことを実感した大会となりました。

さて、昨年１０月の四国の研修会は会長、理事長に揃ってご参加いただきました。そしてその際、四国の仲間の前で次期理事長を私に、と要請されました。

私塾ネットは初代、山口理事長、第二代、谷村理事長、そして第三代は５０代の鈴木正之理事長と若返り、次は一気に４０代の理事長を迎えて、私たちはそれを補佐すればいいと考えていましたので、『何で私が？』『自分にそんな大切な役が出来るわけがない。』『自分の分を超えている。』という心境でした。私にとっては先日の上甲晃先生のおっしゃられた『難有り』です。決定打は仲野事務局長が渡辺浩先生に託された言葉です。ここでその言葉は書きませんが、谷村会長、鈴木理事長の『私たちが出来ることは精一杯手伝うから。』の言葉を頼りに、『次なる世代への架け橋』となれるように挑戦してみようと考えています。

今の時代は良い意味で特色のある塾が保護者や生徒に選ばれているように思います。全国の私塾ネットの会員塾の中にはいろいろな部門で卓越した、素晴らしい塾がたくさんあります。たとえば中学入試、小学校英語、英会話、衛星予備校、現役高校部、個別指導、作文指導、理科実験、保護者対策、広告企画など。こうした様々な部門で、お互いに協力できるところはないでしょうか。教科研修は勿論ですが、こうした塾の特色を生み出す部門の研修も私は提案していきたいと考えています。少しでも会員塾の課題に役立つような情報を提供し、共に前進出来たら良いですね。

最後に、東日本大震災の復興事業はまだ始まったところです。東北の先生方や田中宏道震災支援対策委員長と相談しながら、私たちが出来ることを模索し、できるだけ長期にわたって取り組んでいきたいと考えています。

還暦を過ぎたとはいえ私はまだまだ未熟者です。皆さんのご協力を心よりお願い申し上げます。

皆さんのご支援に感謝

第３代理事長　鈴木正之

我々、私塾ネットは１０周年という区切りの記念式典を行いました。しかし、我々の歴史は１０年ではございません。私塾ネットの旧３団体の歴史は５０年前にさかのぼります。私塾ネットの今があるのも、諸先輩方のご努力の賜です。諸先輩方のご努力に感謝し、１０周年を迎えられたことを喜び、今この場にいられたことを幸せに思っております。

浅草ビューホテルでの１０周年記念式典並びに懇親会の準備、運営にあたられた関東の先生方、谷村実行委員長、仲野先生、渡辺先生、柳田先生、田中先生、川久保先生、監物先生、竹内先生、中村先生、大住先生、桂馬先生、宝田先生、高橋先生、安藤光先生…会員塾の職員の皆さま、ご苦労様でした。参加していただいた皆様、ご講演いただいた上甲先生に、心から感謝お礼申しあげます。ありがとうございました。

さて、私は２００８年、私塾ネットの理事長となり４年間務めてまいりました。その間、多くの方々に巡り合い、多くのことを学ぶことができました。理事長１年目には、前エリア中国代表の北川先生のお言葉に勇気づけられ、エリア関東新代表の長江先生に支えられ、平林治先生に力をいただき、徳島の近藤先生に元気づけられ、そして、湯口新理事長に温かい言葉をいただきました。安藤先生、碇先生、立脇先生、佐藤先生、梶原先生、加藤先生、木谷先生…他のエリアの先生、他団体の先生方、私学の先生方、お名前を挙げるときりがございませんが、多くの方々に支えられ今日を迎えられました。全国に大好きな先生がたくさんできたことが、何よりも宝でございます。本当にありがとうございました。

懇親会の席でもお話をさせていただきましたが、今、日本は目の前に山積する問題を処理していかなければ、先に進めないことは確かですが、後始末ばかりでは根本的な解決にはなりません。それを解決するのは教育です。「日本は教育でしか変わらない」のです。５０年後の日本、我々の子供や孫の時代を見据えて、我々は学習塾、学校(公立・私立)という枠を外し、共に１つの目標に向かって進んでいくことが必要です。そしてそれは実現可能であると信じています。

私塾ネットは学習塾業界、教育界の中でも可能性のある組織であると考えています。教育界のうねりの中で、私塾ネットは今後大きな役割を果たしそうな気がします。私はこれで４年の任期を終えましたが、できることを今後も精一杯やってまいります。皆様、４年間ありがとうございました。そして、湯口私塾ネットをよろしくお願い申し上げます。

エリア通信

エリア関東 広報部長　髙橋直子
（千葉・津田沼学院）

本来ならば１０周年記念大会を受けて書かなければいけないと思うのですが、その頃は原稿を出せる状態にあるかどうか分からないため、記念大会前の時点での気持ちを書かせていただきたいと思います。

私は実は１０周年記念委員の一員なのですが、大変申し訳ないことに個人的な事情により当日のお手伝いがほとんどできないかもしれない状態にあります。今の時点で私にできることはやるとしても、尊敬する谷村先生の元で委員として一生懸命働きたかったので、それをやり遂げることができないのはとても悔しいです。

数年前のことになりますが、私が私塾ネットに入ったのは毎年春に行われる研修会で木下晴弘先生の講演にとても感動したことがきっかけです。当時私は千葉の塾組合しか入っていなかったため、他団体がどんなものか全く知りませんでした。入ってみて私塾ネットならではの自由でゆるやかな雰囲気に戸惑うこともありつつ、これまでとても楽しく参加させて頂きました。当時は複数の団体に入ることに何となく抵抗があったのですが、今では入って良かったと思っています。また全国組織なので他の色々な先生にお会いできるというのも新鮮でした。これから先まだまだ色々な先生との出会いがあるかもしれないというのも魅力的です。

自塾の運営や千葉の活動と重なり、中々参加できず大してお役に立てていないのが申し訳ないのですが、これからも私塾ネットらしい活動が続いていけばと思います。

編集部注

髙橋直子さんには、４月２６日に長男優仁（ゆうと）君を無事出産されました。おりから端午の節句の季節、3230ｇの男の子は元気に育っております。

みどり児の枕辺泳ぐ鯉のぼり（志厚）

エリア中部　代表　松本　紀行
（長野県・チャレンジ学院）

10周年記念のご成功おめでとうございます。実に見ごたえのある盛大な式典でした。谷村会長をはじめ実行委員の皆様のご尽力に対し、心より“ご苦労様でした”と申し上げます。この10年間でしっかりした基盤ができました事と確信いたします。山口先生、佐藤先生方の功労賞授与の時は思わず昔を懐古させられました。懐かしいお話の数々、思わず胸にジーンとくるものがありました。このようにネットのために身を粉にして貢献された皆様が、評価され尊敬される催しは大変有意義なイベントだったと思います。

上甲晃さんの御講演は大変素晴らしかったですね。この講演を企画された方がどなたかは存じ上げませんが、その眼力と手腕に感謝します。松下政経塾で数多くの政治家を生みだされた上甲さんのお話は、とてもわかりやすく奥の深さを感じさせられました。私も松下幸之介さんについては、10年間ほど研究をさせていただきましたが、松下幸之介さんの身近で体験されたお話は、とても親近感を持つことができました。中でも「教育は未来の希望。」、「松下電器は人間を育てる会社です。」のくだりは先生のオーラを感じました。「志」の人とは、人の為に困難なところを進んでやる。そんな人を全国の塾でドンドン育成したいものです。また、「人の長所に気がつかない人は、人を育てられない。」と仰いました。幸之介さんは「暗い営業マン」に対して「そんなに暗いのか。そうか。ええなぁ。お葬式にはうってつけな人やないか。」思わず私の中で“コトッ”と音をたてました。今、私の塾にも暗くはないんだけれど、それと似たような者がおりまして、思わずダブりました。幸之助さんは心が柔らかくって広大なんですねえ。幸之助さんの耳は人の2倍ある。その大きな耳で部下の言うことをしっかり聞いたそうです。話が上手くても立派な人とは言えません。「聞く力」は「心の力」なり。ですね。上司の聞く耳は部下の「やる気」に繋がります。上甲さんが北海道の刑務所を訪れた際、壁に「難有」という大きな文字を発見したそうです。人生にはいたるところに困難があり、逆境が待ち構えています。どんな人にもです。この字を逆にして、「有難い」にすることが「生きる力」だと仰います。私はこのことを「ピンチの中にチャンスあり」と考えました。ピンチという逆境は考えようによっては、人を鍛えてくれます。上甲さんはまず「反省ができて、新たな

改革ができるときである」と。従って、人間の底力を養うときである」と。たしかにいい講師を採用することができますし、土地は安く買うことができます。「会社を立て直すには千載一遇のチャンスである」と、私も心の底からそう思います。言ってみればこれは当たり前のことかもしれません。しかし、ここから先が上甲さんの凄さでした。「当たり前の事を、そこまでやるの？」と周りの者から思われることをやる。この事は会社経営の秘訣の一つではないかなと思い、会社の幹部に即伝えました。夏、夏期講習で「え？そこまでやってくれるの？」と、子供たちがびっくりするような顔を見てみたいなあと、思っています。上甲先生、ありがとうございました。感謝感謝です。

最後に、式典に参加された多くの皆さんが、素晴らしい塾経営をされ、理事長提唱の“絆”を大切にし、私塾ネットを発展させてほしいなあと思います。

エリア近畿　代表　杉山　信良（大阪府・栄光塾）

私塾ネット１０周年に参加して

未曾有の震災により一年延期になった私塾ネットの１０周年ですが、成功裏のうちに終わりました事を嬉しく思います。

また、一昨年の準備段階から労していただいた谷村実行委員長を始め、実行委員の先生方には心から感謝しております。本当にお疲れ様でした。

大阪に戻って、まだ１０周年の興奮冷めやらない４月２６日に、関西私塾教育連盟の総会がありました。開会の挨拶で藪木理事長より、「私塾ネットの１０周年では、二百名を超える参加者があり、なによりも若い先生が多くて、活気があったことが羨ましかった。」との報告がありました。

さて、二次会の挨拶でもありましたように、来年は関西私塾教育連盟の５０周年です。日程は１０月６日（日）会場は遠方の先生方にも参加いただきやすいように、アクセスの良い心斎橋の日航ホテルに決まりました。

塾団連からの古いお付き合いの先生方や、湯口理事長・谷村会長には改めてご案内いたしますので、どうぞよろしくお願いします。（当初１５０人でホテルには見積もりを取っていましたが、１０周年の盛会に刺激されてか、いつの間にか、２００人規模の話になっています。）

今回の１０周年、来年の関私連の５０周年と相互に行き来する中で、太い絆が出来、かつての塾団連のように持ち回りの全国研修大会ができまいか？と考える今日この頃です。

上甲先生の講演も良かったですね。あの講演を聞いて、全国学習塾協会の六月の総会での講演を上甲先生に依頼したそうです。上甲先生のお話の中に「難有」というのがありました。著書を拝読すると、北海道家庭学校のチャペルの正面に掲げられている言葉だとか。

実は、北海道家庭学校の前校長の小田島好信先生とは、同じ教会の教会員で、子どもの頃から家族ぐるみのお付き合いをいただいている間柄です。上甲先生は、北海道家庭学校とは二十年来のお付き合いという事でしたから、四年前まで校長をされていた小田島先生の事は良くご存知でしょう。今は大阪に戻っておられて、近々お会いしますので、上甲先生の話題で盛り上がれることと思います。上甲先生には、学習塾協会の講演を引き受けていただけましたら、小田島先生の近況をご報告いたします。

エリア中国　広報部長　西本　雅明（広島県・パワーゼミ西本塾）

先日人材についての講演を聞きました。僕の場合は「宝くじ的」な職員採用をしてきましたので、「人材のキーワード」として挙げられた10項目（本当はもっとたくさんあるそうですが）は刺激的でした。後でじっくり考えてみると、絶滅危惧種的な人材がよい人材ということになりそうです。紙の資料が無かったので、僕の耳を通り出来のよくない頭を経由して出てくる情報なのでどれだけ正確なのか自信はありませんが、皆様の頭脳で良いものに再構築してみて下さい。

①道（どう）が付く習いごとをしている（いた）。柔道、剣道、茶道など。練習ではなくけいこをしてきた学生。
②つらい体験をお持ちの学生。
③苦学生（夜間、奨学金、編入）。とにかく楽に学生生活を送ったわけではない学生。
④留学経験がある。外国人学生の頑張る様子を見たり、日本の良さを確認できる。
⑤体育会の学生。35000人しかいないそうです。負けや悔しさを経験している。
（吹奏楽部や応援団、運動部のマネージャーでもいいそうです。）
⑥学歴と資格のある学生。もちろん学歴と資格だけではないが、しっかりと勉強をしてきた学生も良い。
⑦歴史が好きな学生。ご縁と感謝の気持ちを持つ学生。
⑧３ほう学生。地方出身者・阿呆（アホなことができる）・貧乏（ハングリー精神）
⑨質問できる学生。人に興味をもつ学生。
⑩両親を尊敬している学生。

以上でした（たぶん）。聞くところによると「道のつく」習いごとをする学生や苦学生は絶滅危惧種とのことです。そう言えば柔道も世界で勝てなくなりましたよね。華道茶道ともに若い会員はほとんどいないそうです。夜間もだんだん無くなる傾向にあるようですし、留学する学生も減り、厳しい体育会よりも楽なサークルを選ぶ傾向があるようです。上記の10項目に合う学生が良い人材だとすれば、質の高い人材が減ってきていると言えるのでしょうか、ちょっと心配で、刺激的な講演でした。

私塾ネット中国の定例会は、僕にとっては㈳全国学習塾協会「塾の日シンポジウム　広島2012」への協力要請の場です。私塾ネット会員と学習塾協会会員はほぼ重なっているのでお願いすることが多く、10月8日に向けて、全てをほっぽり出してでも準備をしていこうと思っています。中国地方の塾も頑張っていますので、10月8日はぜひ広島へ応援においで下さい。

エリア東北 代表　渡部 信雄
（青森県・尚志舎）

ようやく春らしくなってきました

4月8日にセンター事務局の図らいで、エリア東北の総会が開かれました。東京から鈴木正之理事長と中野十和田事務局長に、東京の最低気温が最高気温という青森までおいでいただきました。またこの地に塾団体の種をまかれ、長く先導してこられた関志郎副理事長はお忙しいなか片道2時間半をいとわずかけつけられました。3月以降に3人の新入会員を迎え、何よりも明るい話題となりました。

総会では関先生より現在までの組織の経過が詳しく説明されました。エリア役員には、副代表・会計担当に安藤先生、広報担当に扇野先生が選出され、先に代表に選出された私としては心強い限りです。その後、年に数回会合を開くことを確認し、次回は7月初旬に今後の活動について話し合う予定です。

現在青森県には地域の塾団体が3つあります。公立校志望の強い土地柄もあり高校入試に関わる事業を多く担っています。それぞれ充分な成果を上げていると思います。またそこで生まれた人脈も時に大きな力になっています。今回入会された3人の先生方とは同じ青森市内ということもありかなり頻繁に会っていました。そのことも今回の入会につながっているとすればうれしいことです。以前、うちの塾の生徒が東京に転校することになり保護者から、東京の塾を紹介してほしいという依頼を受けました。早速、石川維雪先生にお願いしたところ、通塾等も含め最適の塾を紹介していただき、その後大変感謝されました。全国ネットの団体に入っていてよかったと思ったことでした。地域の団体ならではの事と、地域の団体ではできないことがあります。私塾ネットの活動を通じてもう一回り外への発信をしていけたらと思っています。

人口30万人以上の都市では、世界一降雪量の多いといわれる青森市は、この冬も連日降り続き最高積雪は152㎝を記録しましたが、4月13日14：00に積雪0となり、ようやく春らしくなってきました。

（広報号外・10周年記念大会プログラムより転載）

エリア東北　広報　扇野昭弘
（青森県・学習塾ＴＲＭ・登竜門）

青森市内で、一人で中学の５教科の一斉授業と小学・高校の個別指導を行っております。

個々に持つ子供たちのDNAを磨き輝かせ、世に送り出したいと日々考え、悪戦苦闘の日々を一人で悶々と送っております。

一人でやっていると、どうしても考えが偏るものですが、東北エリア代表の渡部先生及び奥様の一代さんと、畑を耕し、種を蒔き、雑草を刈り(これが最も大変で、常々渡部先生は農家の仕事は草刈だとおしゃいます。)、そして収穫、おいしいお酒と共に食卓を囲みながら、塾について、生徒について、考え方について指導を受けております。

また、畑よりも一緒に過ごす時間が多いのは、100キロマラソンの出場とそれに伴う練習時間です。

動かなくなった体に鞭を撃って、一歩一歩進まなければなりません。涙が止まりません。

よく耳にする、限界にチャレンジ、限界を超えているようにも思える自分を通して、子供たちに優しい言葉を掛ける事ができるようになったと自負しております。

そんな私ですが、いつまでも教えを頂くだけではなく、エリア東北代表の渡部先生を全力でサポートしていく決意があります。

また、塾ネット１０周年記念式典に参加させて頂き、様々な先生方の熱き思い、私にはできない偉大な功績を、これから入会する青森の若い塾人に私が伝えていけたらと考えております。

先輩に安藤先生がおられますが、眠りが足りなく式典中ちょっと居眠りした私に、「ヨダレ垂れて!青森から牛連れてきてしまった。」という言葉には優しさがなかったので、私が愛を持って若い塾人に伝えていきます。

そんな青森の扇野ですが、皆様方が青森にお越しの際には、全力で尽くしますので、どうぞよろしくお願い致します。

初めまして！

ふくし英数教室（青森）　福士明美

３月から私塾ネット・エリア東北の仲間入りをさせていただいた福士と申します。
学生時代、家庭教師のアルバイト経験があったため、OL時代や結婚後も親戚や知り合いに頼まれては、自宅で教える事が続いていました。ある日、近所のお母さんに「どうして福士さんの家に、中学生や高校生が時々来てるの？」「えぇ～それじゃ家の子にも安く教えて～！」と提案され、近所の子供たちとの勉強が始まりました。こんな始まりなので、生徒も保護者も私を「おばちゃん」と呼びます。お母さん目線で、当たり前の事を当たり前にきちんと積み重ねていく学習を心がけています。口コミで少しずつ生徒が増えるようになり、今年で１５年目になります。

最近では、息子たちが卒業した小学校で英語のguest teacherをしています。少しでも地域のお役に立てていれば幸いです。多くの塾がある中で、こんな小さな教室を選んでくれた生徒・保護者に感謝し、私も進化し続けたいと思っています。

今回、私塾ネットの入会を勧めてくださった尚志舎の渡部先生や東北エリアの先生方からいろいろとご指導いただき、全国の先生方と情報交換ができる事をとても嬉しく思っています。
こんな「おばちゃん」をどうぞよろしくお願いいたします。

私塾ネット設立１０周年祝賀会
出席者160名の着席パーティー、盛大に開催される

第一部で行われた上甲晃氏による基調講演の興奮がまだ冷めきらぬうちに、第二部の『設立十周年記念パーティー』が仲野十和田新センター事務局長による司会進行で行われました。

開会の挨拶で鈴木正之理事長はその任期を満了されたことを報告され、新たに理事長となる四国香川の湯口兼司先生を紹介されました。鈴木先生、四年間本当にお疲れさまでした。

そして、早々に川合正先生による乾杯、私塾ネット流の進行が参加された先生方の中にも浸透しつつある中、ご来賓による祝辞をいただきました。

余興のコーナーでは「江戸紙切り芸」の第一人者である林家正楽師匠をお呼びし、これも神業の域に達している紙切り芸を披露されました。途中、サプライズでご結婚されたばかりの私塾ネット関東会員である埼玉県深谷市の彩北進学塾、蓮克彦先生と奥様を壇上に呼び、お二人の向かい合った姿を紙切りにしていただきました。蓮先生、ご結婚おめでとうございます、末永くお幸せに。

また、エリア代表から近況とご挨拶という事で、エリア東北からは、こちらも新たに東北代表になられた学習塾尚志舎の渡部先生をはじめとした東北の先生方が登壇され、ご挨拶されました。エリア関東は参加された関東会員塾の先生方が全員登壇され、仲野代表に代わり、私関東総務部の渡辺が挨拶をさせていただきました。エリア関東も仲野先生が代表の任期を満了され、新たに神奈川の長江勝秋先生が関東代表になられたことをご報告申し上げました。残念ながら長江先生は体調不良のため今回は欠席されましたが、総務部長として長江新代表をサポートし、新生エリア関東ということで、これからも私塾ネットを盛り上げてまいりたいと思います。

エリア近畿からは栄光塾の杉山先生、エリア中国からは若竹塾の佐藤先生、エリア四国からは学習院セミナーの寺嶋先生、最後にエリア九州の代表、林先生がご挨拶されました。失礼を承知しながら書かせていただきますが、印象に残ったのは学習共同体グループの河浜先生の大声量と、エイブル田村先生の「皆さ～ん、二次会は盛り上がりましょう！」でした。

そして最後のサプライズは、「映像で見る私塾ネットの１０年」ということで、第一部でも上映した映像に、まさに今終えたばかりの第一部の様子を加えた新しい映像を上映しました。この神業は仲野新センター事務局長ならではのなせる業で、第一部もご覧になられた方々は大変驚かれていました。仲野先生、本当にお疲れさまでした。

今回参加された先生方をはじめ、ご参加いただけなかった先生方、これからも私塾ネットを大いに盛り上げてまいりましょう。

（エリア関東総務部長　渡辺　浩）

来賓のご挨拶をいただいた参議院議員大島九州男氏（上）と衆議院議員下村博文氏（下）。与野党呉越同舟のお立場だが、ともに塾業界を応援いただいているお二人である。今後も連帯を深め、引き続きご支援を賜りたいものである。

乾杯のご発声は前京北学園校長川合正先生。
今春から東洋大学経営企画本部に転出された。

第3代理事長
鈴木　正之

新理事長
湯口　兼司

喝采を浴びた江戸紙切り芸　林家正楽師匠の妙技。三味線と太鼓のお囃子もにぎやかに、下町浅草風情たっぷりの演出に祝賀ムードも盛り上がる。

←エリア東北渡部代表初登場。後列左から福士、安藤、扇野先生、いずれも遠路青森から駆けつけてこられた。

→湯口新理事長の選任を見届けるため、海を超えて四国から駆けつけた寺嶋代表以下12名のエリア四国会員の皆さん。

私塾ネット四国　春の研修会
誉田（ほんだ）進学塾（千葉市）にて「合格力ＮＯ１を生み出す教務力の秘密」

エリア四国　広報　神野純典
（愛媛県・神野進学教室）

日時　平成２４年４月２１日
　　午後１４時５０分～１７時
場所　誉田進学塾本部
　　千葉市緑区おゆみ野3-31-8

１、４月２１日１３時３０分東京駅発の特急わかしお１３号に乗って、寺嶋代表をはじめとする私塾ネット四国のメンバー８名は千葉市にある誉田進学塾に向かいました。
１４時５０分鎌取駅に到着するとサプライズが待ち構えていました。誉田進学塾の清水貫代表と田村先生に加えて谷村志厚会長が出迎えてくださっていたのです。一同感激しながら鎌取駅前の鎌取駅南口校に移動しました。
ご承知のように誉田進学塾は『読売ウィークリー』が公表した高校進学塾ランクで、首都圏の公立高校「合格力」ランク３年連続１位（２００４年～２００６年）を達成した名門塾です。
鎌取駅周辺だけで大小合わせて２０ほどの塾がひしめく中で、誉田進学塾は生徒数・売り上げともに毎年伸ばされています。
今回は清水貫代表のご厚意で「合格力ＮＯ１を生み出す教務力の秘密」と題して、清水貫代表を講師に研修を行いました。
誉田進学塾の基本方針「真の意味での英才教育」に貫かれた、指導スタイル・社員教育に参加者一同非常に感銘を受け、清水先生の論旨明快な話に大いに納得させられました。

２、高校部東進衛星予備校鎌取駅南口校見学

鎌取駅南口教室は２００８年に開校された高校部の専門教室です。すでに何人かの高校生が勉強に来ていましたが、教室はしっかり整理整頓され、快適な勉強スペースが確保されていました。鎌取駅南口校は東進衛星予備校として運営されていますが、特長は正社員の方の包括的なサポートが充実していることだと思います。クラスルームでタイムリーな受験情報を提供したり、生徒の志望校に合わせて専任の社員が勉強計画をプロデュースされているとのことでした。
卒塾生の要望で高校部を設置された経緯もあり、現在は定員一杯で夏までは募集も難しい状況だそうです。

清水先生（前列中央）を囲んで本部教室前で記念写真。後列中央が筆者の神野先生。その左に湯口新理事長。

３、鎌取本部教室にて清水貫代表による研修開始

（1）誉田進学塾の沿革

清水代表によると、誉田進学塾の歴史は大きく３つのステージに分けられるそうです。まず１９７８年～１９９２年までの**「創業期」**。この時期は個人塾の時代、一言で言えば「清水家の塾」の時代です。
次に１９９３年～２００５年の**「進化」の時代**。１９９３年に初めて外部の人間を採用して個人塾から「脱皮」・「進化」する時期です。ただまだこの段階では代表と仲間が一緒に塾をやっている状態だそうです。最後に２００６年から現在に至る**「組織化」の時代**です。これは若手の社員もどんどん採用して、塾を組織化していく時期にあたるそうです。
現在清水代表は若手の社員の方々の活躍の場をどのようにして作り出していくかに心を砕かれているそうです。
それぞれの転換期に清水代表はいろいろ悩まれたそうですが、現在の形になった一つのきっかけは、２００４年に読売ウィークリーから発表された高校進学塾ランクで、並み居る強豪塾を押さえ首都圏１位になったことだそうです。実は、この年は誉田進学塾からすると実績がおもわしくなかったそうで、１位は清水代表には意外でした。それにも関わらず１位に選ばれたことで、この合格力を生かした方向性を探ろうというようになったそうです。

（2）教務における基本方針・・・
真の意味での「英才教育」

①子供たちが自ら考え理解し、自分の力によって新たな発想を生み出し、その結果問題を解決していけるように育てることを実現するためには、まずプロセスにこだわる。結果ではなく結果にいたる過程（プロセス）が大切で、生徒がどのように成長するか、成長するためにはどのような環境を整え、アクションを起こし、サポートしていくかなどが重要になってる。
②プロセス重視だから、簡単な解き方を教え、単に

熱弁をふるう清水代表と真剣に聞き入るエリア四国のメンバー。

正解を出させるだけの授業は意味がない。生徒が乗り越えるべき壁を敢えて設定してやる。その壁を乗り越えることで、生徒は成長する。この言葉は私にとって耳の痛いものでした。ともすれば、効率的で簡単な解法を生徒に教えて満足していた自分がいたからです。

③プロセス重視だから、授業スタイルは、対話参加型授業になる。誉田進学塾の授業は一見騒がしく見えるかもしれない。生徒の発言を促す対話参加型の授業だからとのことでした。

④誉田進学塾独自のカリキュラムで教える。

子供たちの思考力を鍛え、本質的理解を培うために、授業は独自のカリキュラムで行われているそうです。

④授業と連動した演習テストを行う。

演習テストの内容はよくある基本的で簡単な確認テストではなく、入試レベルの難問を交えた本格的なものだそうです。

しかも合格点に達しなければ、追試があり、大学生のチューターによる補習も実施するとのことで、最終的に合格するまで追試は続けられるそうです。

生徒の思考力を開花させる対話参加型授業とそれを定着させる演習テストを徹底して実施されているところが合格力の秘訣だと感じました。

⑤定期テスト対策

誉田進学教室では、過去問や予想問題を使った演習は実施しない、点取り指導は行わないとのことでした。テスト対策は、まずノートをまとめ、次にテスト範囲をワークで演習するという当たり前の勉強をさせるそうで。塾は主に生徒の進度管理を行うそうです。生徒の自立的な学習を念頭においてのことです。

安易な点取り主義に走らない方法論がテスト対策でも貫かれているなと感じました。

（３）質疑応答

湯口先生が

「真の英才教育を行うというポリシーが貫かれているところが素晴らしい。しっかりした形が完成されてから展開されているのが成功の秘訣である。さらに自分たちのやっていることを地域に知らせている、パブリシティーがしっかりされている」と発言され、近藤先生は

「分かりやすい授業がいい授業という訳ではない。生徒の実力を伸ばすために、敢えて悩ませる授業をすべきではないかと考えていたので共感する部分が多かった」と述べられました。

山田先生が入塾テストの位置づけについて尋ねられたところ、清水代表は「希望者全員を受け入れるのは物理的に無理がある。選抜せざるを得ないが最も公平な方法はテストによる点数である」と答えておられました。

入塾に関しても、誉田塾の真の意味での「英才教育」という基本方針が貫かれているなと感じました。

今回の私塾ネット四国の春の研修会は清水貫代表のご尽力で充実した有意義なものとなりました。ありがとうございました。

総会後皆さん和やかに「ピース！」、すっかり童心に帰ったようだ。

エリア関東総会開催される

研修大会に先立ち浅草ビューホテル蔵前の間でエリア関東の定期総会が実施された。２３年度活動、会計報告、２４年度活動、会計計画等の審議議案は満場一致で承認された。仲野代表がセンター事務局長に着任することにともない、新代表として長江勝秋先生（英数学院・神奈川県）が推挙され承認を得た。ただし現在病気療養中の為、この間は鈴木正之先生が代表代行を務められることとなった。

私塾ネット アーカイブス

名誉会員　石田　治正
（東京都葛飾区）

名誉会員の石田治正さんから、ご交友のあった日本画家平山郁夫画伯との交流を綴った一文が寄せられました。誌面の都合上2回にわたって掲載をいたします。今年83歳になられた石田先生は、現在も広島での被爆体験の語り部として、都内の学校等で講演を続けられております。

画家平山氏との交流記

昭和七年石田家の住所は広島市上幟町一〇五番地で広島藩主浅野家の別邸の向かい側にありその周辺は閑静な環境で、その東側の道路に大型の建築物があり右は広島市裁判官、左には上級軍人の官舎がある。

この別邸の向かいには東西に長い八軒の住宅が並びいずれも浅野家の士族系の住人なので仲良く暮らしていた。そして住宅地の中程に古木の松林が十数本並び昼間でも天高くそびえて薄暗くそこに野鳩十数羽住みつき朝夕に泣き声が響き私はよく観察した。

わが家は東側から二件目で間取りは玄関は両開きになって入り、そこは三畳でその奥に六畳と八畳が左右にありその左に台所と四畳位の板間そしてその奥に大きな鉄製の五右衛門風呂がある。また玄関の右側の庭に小さな池があり金魚が数匹いる。

昭和十三年小学四年の夏休みに父の要望で広島県豊田郡幸崎町字渡瀬の親戚である河内家で一週間楽しく過ごした。この家は農家だが主人は隣の忠海町役場で事務長を勤め毎朝早く出勤していた。さらに娘さんのふじ江さんは豊田郡瀬戸田町字福田の向山重信氏と結婚し先祖代々農園で蜜柑栽培し品質が良好なので関西方面の業者に名産品として販売していた。ある日河内家の主人は「この機会に瀬戸田町へ行って学習してこい」と進言されて出発した。

当時瀬戸田町へ行くには三原港から和船で佐木島の南方の大型の生口島がありそこで下船すると瀬戸田町がある。到着すると周囲は漁船が行きかい野鳥数羽が飛び合っていた。

この町の役場のそばにある平山家と親戚交際を重ねていたので叔父に連れられて訪問した。その理由は次男の郁夫君が快晴日は必ず下校後、絵画用紙、クレヨン箱、鉛筆箱を鞄に入れて外出していた。そこで母親は勉強しないで外出習慣を身につけているのを困惑してその日も叔父に改善策を尋ねていた。そばにいる父親はいつも見守っていると言う。長男は病身なので床についている。

郁夫君は私と一つとし下で訪問した日も布製の袋を持って外出したので私は注目し同伴した。

私は郁夫君が海岸沿いの平地で写生の姿を見てその時の目付きに驚いた。こんな人もいるのか。学校の児童達と異なった姿を見て心が動揺し、学校で見る事ができない状況に目をぬぐった。

翌日叔父が私の顔を見つめながら語った。「何事も将来の夢や希望に向かって努力を重ねる事が大切で目標を定めて実行すればへばる事はない。いつも充実した学習を重ねていれば心は輝いていく。人間にはこうした精神力のある人は少ない。お前も将来の目標に何に手をつけ努力を重ねるのがよいか。平山君の写生姿を思い出して進歩してほしい。」と忠告を受け心に深く刻み込まれた。私は廊下から農園を眺めながら平山君の姿が浮かんだ。

（以下次号に続く）

私塾ねっと誌上句会　第十回

選者　梶原賢治（私塾ネット副理事長）

陽光や 春の兆しは 息吹かな　石田治正（東京都）

初夏の道 心の安らぎ 水温む
水温む、今となっては懐かしい言葉ですね。

子の方が 一枚上手 四月馬鹿　松本紀行（長野県）

花吹雪 浴びてみたらし 団子かな
中間切れで二つの楽しさが接着、花見の頂点。

ペタル踏む きみの行く手 に桜かな　十亀幸雄（愛媛県）

七折れの 丘のぼりつめ 若葉かな
あるポイントに着くと瞬間的に風景が開けた感動が思い出されます。

快晴の 富士に喰いつく のぼりかな　中村直人（神奈川県）

つばくらめ 渡り通路で すれちがい
一瞬の出会い、たっぷりの自然。

雪解けて 一羽二羽と 北帰行　岸部雄一（北海道）

氷解け 一艘二艘と 湖（うみ）走る
ふと春を知らせる風物に心なごみます。

産声を 窓越しに聞く 緑雨かな　谷村志厚（千葉県）

ちらほらと やがてたちまち 花吹雪（石巻市日和山）
桜の季節は待ち遠しくて、しかし、楽しみはあっという間に・・・

紫陽花や その地この地で 自在なり　梶原賢治（埼玉県）

紫陽花や 北向きのかど 福となし
上甲さんの講演会を思い出しながら。

編集部からお願い　次号は7月発行の夏号です。
投句はお一人4句まで夏の季語でお願いします。
投稿はメールshikot@aim-net.co.jp**または**FAX047-368-2189
谷村宛。
締切は7月10日です。

私塾ネット出前寺子屋 in 石巻　レポート

平成２３年８月１６日から始まった宮城県石巻市での私塾ネット出前寺子屋活動は、月２回のスクーリング（学習会）を継続実施し、５月１３日の活動で２０回目になります。この間支援スタッフとして加わった私塾ネットの関係者は延べ７０名を超えます。

出前寺子屋の開講される会場は、石巻市内の仮設団地の「ささえあい拠点センター」集会所です。登録されている講習生は延べ４８名で、第２期にあたる５月現在の受講生は３５名です。このうち漢字検定の取得を目指す方は２５名、残りの１０名は英語検定の学習に取り組んでいます。また世代構成別でみると、小中学生が１４名、一般社会人が２１名となっています。

学生と大人が席を隣り合ってともに学ぶほほえましい風景は、学びの原点ともいえるものです。初めて寺子屋を訪れる支援スタッフに、新鮮な驚きを与えています。「家庭学習の復興」をテーマに掲げる私塾ネット出前寺子屋の、実践の場がここにあります。会員の皆さんの積極的な関与をお願いするところです。

２３年８月から翌年２月までに実施された漢字検定の成績は、受検者総数４２名に対し合格者４０名という素晴らしい実績を残しました。その内訳は別表の通りです。尚、この期間は英検の指導は行っておりません。

今後の予定は５月１３、２９日のスクーリング、６月２日に２４年度第１回漢検、９日には同英検が集会所を検定会場として実施されます。

６月９日の英検実施をもって、私塾ネットの名を冠した活動はいったん終了し、その後は学習塾有志による活動を継続する予定になっています。

（文責　谷村志厚）

２３年度第３回漢字検定合格者２３名の内訳
２級 - ３名、準２級 - １０名、３級 - ４名、
４級 - １名、５級 - ３名、６級 - １名、
７級 - １名　　（小中学生８名、一般15名）

２３年度第２回漢字検定合格者１７名の内訳
２級 - ２名、準２級 - ２名、３級 - ８名、
４級 - ３名、６級 - １名、７級 - １名
（小中学生７名、一般10名）

会計部報告

私塾ネットセンター会計部長　監物一男

会員の皆様には、日頃よりいろいろとご協力いただきありがとうございます。今年度も賛助会員の方々と各エリアのご協力の基、円滑な会計運営ができるよう、宜しくお願い申しあげます。現在、24年度のセンター会費の徴収を行っております。つきましては、各エリアごとに、センター会費を集めさせていただきたいと思います。詳細は、エリア代表ないしはエリア会計担当にお問い合わせください。

エリア代表者
エリア関東　長江勝秋（英数学院）
エリア中国　佐藤将紀（若竹塾）
エリア四国　寺嶋謙次（学習院セミナー）
又、北海道　入江昌憲（札幌進学教室）
エリア東北　渡部信雄（尚志舎）
エリア中部、エリア近畿、エリア九州に於きましては、センター会計部より、個別にご案内をお届けいたしておりますので、ご確認ください。

又、賛助会員の方におかれましては、代表者の変更などございましたら、ご連絡のほど宜しくお願い申し上げます。

尚、詳細やご不明な点は、センター会計部　監物一男（048-688-6903　向学館内）までお問い合わせください。

【郵便振替でご送金の場合】以下の郵便口座までご送金ください。
（口座番号）０２３０－６－００６８８２０
（口座名義）全日本私塾教育ネットワーク
【銀行振替でご送金の場合】
埼玉りそな銀行　七里支店
普通預金　４４１３３１６
（口座名義）私塾ネット　会計部長　監物一男
以上、よろしくお願い申しあげます。

渉外部報告

私塾ネットセンター広報部長　佐藤勇治

平成24年(2005)秋より、6年の歳月と160名の執筆陣、24名の編集委員によって、発刊の準備が進められていた『学習塾百年の歴史－塾団体五十年史』が、平成24年(2012)4月5日、全日本学習塾連絡会議より発刊されました。

本書は、函入り、上製本、1170頁に及ぶ保存版の歴史書で、編集長の佐藤勇治が25年に亘って作成してきた52冊の著作の集大成であり、50年間に亘って佐藤氏が撮りためてきた約42,000枚の写真の中から約900枚の写真が収録されています。

本書を読めば、100年にわたる塾の歴史、50年の塾団体の歴史がわかるだけでなく、世相や時代と共に進化し続けてきた塾の全体像を追うことが出来ます。

また、学習塾と学習塾団体の全てが分る本書を紐解くことによって、今後の塾のあり方や日本の教育改革のあり方について、大きな示唆を得ることが出来れば幸いです。

平成24年4月22日(日)、浅草ビューホテルで開催された私塾ネット設立10周年記念大会第一部の記念式典のあと、上甲晃氏の記念講演「激動し続ける日本、これからの人づくり」が行われ、会場に出席した先生方に深い感銘を与えました。

主催者側（実行委員会）のご好意により、記念講演前に、『学習塾百年の歴史ー塾団体五十年史』出版報告の時間を15分間とって頂きました。その報告です。

当日、記念大会に出席した「百年史」編集委員、執筆者のうち、主要メンバー16名が壇上で第1回報告会（今後、全国で9回開催予定）を行いました。私塾ネットの加藤実氏の司会で、ご挨拶は、編集委員を代表して一橋大学名誉教授の中嶋浩一氏と全日本学習塾連絡会議・代表幹事の坂田義勝氏が行いました。その後、壇上の各先生の自己紹介があり、最後に編集長の佐藤勇治氏が出版報告とお礼を申し上げました。

全日本学習塾連絡会議主催、『学習塾百年の歴史ー塾団体五十年史』出版祝賀会・報告会・懇親会の日程決まりました。是非ご参加下さい。

１、日　時：平成24年9月16日(日)／15:00
２、会　場：東京プリンスホテル
（東京都港区芝公園）
３、参加者：250名
（詳細は実行委員会で検討中、後日ご案内発送）

[本書の入手方法]

１口＝5,000円の浄財（寄付金）にて本書1冊を進呈
＊本書は実費1冊＝7,500円です。２口以上の浄財大歓迎

[申込み・連絡先]

『学習塾百年の歴史ー塾団体五十年史』
編集委員会　編集長　佐藤勇治
Tel：042-482-1481／Fax：042-483-1618

閑話休題　　編集長　谷村志厚

２年越しの準備期間を経て、10周年記念大会が終わりほっと一息だが、休む間もなく広報38号の編集に入った。今回執筆いただいた投稿者の皆さんは、つい2週間前に広報号外10周年大会プログラムに原稿を寄せていただいた方とあって、まことにあわただしくご迷惑をおかけした。迷惑ついでに申し上げれば、次号が7月上旬が締切となるので、その節はよろしくとお願いするしかない◆10周年大会へは会の内外から200名をこえる皆様にご参集いただいた。この時期に地方会員をふくむこの動員数、それも私学の先生方ばかりが目立つことの多い首都圏の会合に、塾関係者の数が圧倒した点は、我田引水ながらおおいに納得のいく結果となった◆役員改選の年に当り、湯口理事長という新しいリーダーが着任した。新しいとはいえ、我々にとっては4年越しのラブコールであった。全国組織の代表は首都圏にあるべきとの意見も耳にするが、全国組織だからこそリーダーを地方に求めるというのも一つの真理である。昨今の地方分権を求める社会構造は、我々の業界においても同様である。首都圏における諸雑務は、事務局の主導で会長、副会長以下の首都圏のスタッフで支えて行けばいい。どこにあれども適材適所、率先垂範で活動を推し進めるのが、私塾ネット10年の知恵と工夫である◆宮城県石巻市で出前寺子屋活動を始めて8カ月を経た。スクーリングの回数は4月29日の活動で19回を重ねた。この間漢字検定の受検者は42名、このうち合格者は40名という好成績である。6月実施の24年第1回検定では18名が挑戦するのだが、このうち2級受検者が11名と、きわめてレベルの高い受検となっている。この間指導にあたった支援スタッフは、延べ75名を数える。そのほとんどが私塾ネットの関係者である。今回の学習支援活動は、被災者の方々に学びの機会を提供するというのが第一義だ。だがその結果として、この活動に参加する者に、学びの本質を示唆してくれたことが大きな成果であったと理解している。今しばらくこの活動は継続される。志ある者の参加を求める。

私塾ネットセンター　事務局通信

事務局長　仲野十和田(ナカジュク)

「Joko_Akiraです。
大変、お世話になりました。多くの皆様が、熱心にお聞き届けいただき、心から感謝申し上げます。上甲晃」

上甲さんからのメールです。

私は、当日の朝から、準備と代表者会議、関東会員総会、記念式典、懇親会とそれぞれ、役割をこなすのが精一杯で、参加者がどんな気持ちで参加されているのかを感じ取る余裕はありませんでした。

ところが、懇親会終了後から、その後数日、メールや電話などで、「良かった」「温かい会でした」「私塾ネットならではだね」というような声を掛けていただき、じわじわと会の成功を確信することができました。

200名の方々にお集まりいただけたことは、すごいことですが、さて、どのくらい満足してもらえるかが、私塾ネットの腕の見せ所だと思っていました。

震災により、式典が1年延期され、講演者も練り直しとなりました。震災や政治的な影響かもしれませんが、私が、かつて、育英塾(根室:岸部雄一先生)の設立40周年の記念講演で聴いた、上甲さんのメッセージが忘れられず、提案したところ、すんなりOK！あとは、岸部先生のお力をお借りして、私にとっては、夢の講演が実現しました。上甲さんからのメールにもあるように、参加された方々が、熱心にメモを取る姿が随所にみられるなど、本当にみなさん熱心に聴かれていました。

さて、谷村実行委員長を中心に、かれこれ2年越しの準備を進めて参りましたが、「どんなことをしたら、参加された方々に喜んでもらえるか？」そんなことを常に考えながら、みんなでいろいろなことを作り上げてきたと思います。準備の大変さはありましたが、過酷さはなく、むしろ楽しめました。絶えず、笑いがありました。当日の10日ほど前には、当初予定していた150名を超え、実行委員の雰囲気もかなり盛り上がってきました。

さて、当日参加された方は、ご覧いただけたかと思いますが、谷村実行委員長の命で、ムービーを制作することになりました。実際これは、かなりの悩みの種でした。どうすれば、参加者の心を掴むことができるか？それは、懇親会では、1部と違うものを作り、当日の様子を入れることでできると確信はありました。しかし、当日私にそのような時間があるのか？そして、最大のポイントは、約40名の方々の笑顔写真が撮れるか？ということです。特に後者がうまくいくか…。　ところが、来られる方、来られる方に「笑顔をお願いします」というと、私の思いをわかってくれているのか？どの方からも素敵な笑顔をいただくことができました。嬉しかったです。　「これが、私塾ネットの良さだ…」

全国を通じて、賛助会員の方々を含めて、私塾ネットの空気ができているのですね。

最後に、この1年、暫定で事務局長をさせていただいておりましたが、湯口新理事長より、指名を受け、再びこの重職を担うこととなりました。エリア関東代表は退任し、この職に専念したいと思っておりますが、何分、無精が身についておりますので、至らない点がありましたら、何なりとご指摘ください。宜しくお願い申し上げます。

フォート・ほっとコラム

爽快　＜爽やかで心地よいこと＞

今回の十周年記念式典出席は久しぶりの東京、懐かしい会員の皆様の笑顔に出会うことができ、会の成功とともにこころに人の温かさと絆の強さを実感できた一日でした。
式典を通して心身ともに爽やかになり、いい気分でゴールデンウイークが迎えられそうです。
スタッフの皆様本当にご苦労様でした。

東京は雨でしたが広島に帰ると一足早い五月晴れ。この好天と気分のノリで以前から一度乗ってみたかったローカル列車の旅へと出かけました。
そのローカル線は「清流線」といって、名勝錦帯橋を流れる錦川に沿って、岩国から錦町まで、カラフルな一両列車が走っています。

その日の錦川は青空と新緑を映して青と緑に染まり、流れる水は川底の小石が見えるほど澄んで清く、ゆっくり瀬戸内海へと流れ下っていました。
このピュアーな景色を窓越しに横目で眺めながら一時間余りカタコトと走ります。新緑と清流に身をゆだねながら、日常を忘れることのできるのんびりとした小さな旅でした。
こうした心をリフレシュして爽快な気持ちになれる旅は何も遠くまで行かなくても、思い立てばすぐに手の届く身近なところにもあることも知りました。

川は緑の風に乗って爽やかに泳ぐこいのぼりを映して、静かにそしてゆっくりと大海へと流れて下っています。

爽快　＜何かをしようとする気分にさせる言葉＞

（文＆写真:城忠道・エリア中国・芸城学院）

賛助会員一覧（順不同）

関東国際高等学校　村山ｻﾝﾄﾞﾗｰ先生
東京都渋谷区本町3-2-2　TEL03-3376-2244

江戸川学園取手中学高等学校　竹澤　賢司先生
茨城県取手市西1-37-1　TEL0297-74-8771

十文字中学高等学校　夘木　幸男先生
東京都豊島区北大塚1-10-33　TEL03-3918-0511

東洋高等学校　丸茂　隆　先生
東京都千代田区三崎町1-4-16　TEL03-3291-3824

桜丘中学高等学校　品田　健　先生
東京都北区滝野川1-51-12　TEL03-3910-6161

聖徳大学附属中高等学校　川並　芳純先生
千葉県松戸市秋山600　TEL047-392-8111

麹町学園女子中高等学校　大野　博人先生
東京都千代田区麹町3-8　TEL03-3263-3014

春日部共栄中学　宇野　禎弘先生
埼玉県春日部市上大増新田213　TEL048-737-7611

大成高等学校　森　　保　先生
東京都三鷹市上連雀6-7-5　TEL0422-43-3196

東京学園高等学校　須藤　勉　先生
東京都目黒区下目黒6-12-25　TEL03-3711-6641

東京立正中学高等学校　藤井　教戒先生
東京都杉並区堀ノ内2-41-15　TEL03-3312-1111

八雲学園中学高等学校　横山　孝治先生
東京都目黒区八雲　2-14-1　TEL03-3717-1196

関東第一高等学校　副田　康孝先生
東京都江戸川区松島2-10-11　TEL03-3653-1541

武蔵野中学高等学校　楠木　文史先生
東京都北区西ヶ原4-56-20　TEL03-3910-0151

和洋国府台女子中学高等学校　西山　紀子先生
千葉県市川市国分4-20-1　TEL047-371-1120

新渡戸文化中学高等学校　小嶋　輝夫先生
東京都中野区本町6-38-1　TEL03-3381-0196

文京学院大学女子中学高等学校　嶋田　栄司先生
東京都文京区本駒込6-18-3　TEL03-3946-5301

東洋大学付属京北学園　野中　政廣先生
東京都北区赤羽台1-7-12　TEL03-3941-6253

大森学園高等学校　矢部　一紀先生
東京都大田区大森3-2-12　TEL03-3762-7336

東京成徳大学中学高等学校　増澤　文徳先生
東京都北区豊島8-26-9　TEL03-3911-2786

日本工業大学駒場中学高等学校　河村　文夫先生
東京都目黒区駒場1-35-32　TEL03-3467-2130

青稜中学高等学校　笠松　芳幸先生
東京都品川区二葉1-6-6　TEL03-3782-1502

東京女子学園　実吉　幹夫先生
東京都港区芝4-1-30　TEL03-3451-6523

駒込中学高等学校　河合　孝允先生
東京都文京区千駄木5-6-25　TEL03-3828-4141

愛国中学高等学校　高橋　英夫先生
東京都江戸川区西小岩5-7-1　TEL03-3658-4111

日本橋女学館中学高等学校　園田　義宣先生
東京都中央区日本橋馬喰町2-7-6　TEL03-3662-2507

安田学園中学高等学校　福谷　隆芳先生
東京都墨田区横綱2-2-25　TEL03-3624-2666

科学技術学園高等学校　船津　和良先生
東京都世田谷区成城1-11-1　TEL03-5494-7711

日本音楽高等学校　伊庭　崇　先生
東京都品川区豊町2-16-12　TEL03-3786-1711

立正中学高等学校　今田　正利先生
東京都品川区大崎4-2-16　TEL03-3492-4416

上野学園中学高等学校　高橋公美子先生
東京都台東区東上野4-24-12　TEL03-3842-1021

二松学舎大学付属高等学校　舘野　宏　先生
東京都千代田区九段南2-1-32　TEL03-3261-9288

村田女子高等学校
村田学園小石川女子中学校　小林　隆司先生
東京都文京区本駒込2-29-1　TEL03-5940-4187

自由学園（中等部・高等部）　更科　幸一先生
東京都東久留米市学園町1-8-15　TEL042-422-3111

帝京中学高等学校　大谷　幸男先生
東京都板橋区稲荷台27-1　TEL03-3963-4711

京華学園　今野　巌　先生
東京都文京区白山5-6-6　TEL03-3941-6493

千代田女学園　長尾　和雄先生
東京都千代田区四番町11　TEL03-3263-6551

日出中学高等学校　大江　律夫先生
東京都目黒区目黒1-6-15　TEL03-3492-3388

目黒学院中学高等学校　阿部　幸彦先生
東京都目黒区中目黒1-1-50　TEL03-3711-6556

共栄学園中学高等学校　伊藤　裕　先生
東京都お花茶屋2-6-1　TEL03-3601-7136

東京家政学院中学・高等学校　滝沢　保一先生
東京都千代田区三番町22　TEL03-5245-6534

東京女子学院中学・高等学校　宗内　信二先生
東京都練馬区関町北4-16-11　TEL03-5903-9559

(株)創開コミュニティー　小林　和光様
千葉県柏市柏2-7-22-202　TEL04-7164-6511

ドラゴンフィールド㈱　和田　功　様
千代田区神田錦町3-23錦町ビル8　TEL03-5282-3174

㈱パワーコンサル　山田　博史様
豊島区東池袋1-21-11-7Ｆ　TEL03-5928-1686

㈱私塾界　山田未知之様
豊島区東池袋1-39-1三善ビル　TEL03-3987-0838

㈱ＳＲＪ　板橋　玲　様
港区芝公園2-4-1柴パークB館102　TEL03-5425-6534

デザインオフィススズキ　鈴木　学　様
千葉県柏市柏687-6　TEL04-7164-8276

(株)ぱど　田中　和博様
新宿区新宿 5-17-17　渡菱ビル7F　TEL03-5155-8122

(株)エドペック　千葉　貴広様
横浜市中区山下町25-15　ﾌｭｰﾁｬｰ山下　TEL045-226-5494

(株)学研ｴﾃﾞｭｹｰｼｮﾅﾙ　伊藤　龍男様
品川区西五反田2-11-8　9F　TEL03-6431-1337